

平成23(2011)年度

## 埋蔵文化財緊急発掘調査概報

片山東屋敷廻遺跡  
垂水遺跡  
高畠遺跡  
吹田城跡推定地  
藏人遺跡  
垂水南遺跡  
榎坂遺跡

平成24(2012)年3月

吹田市教育委員会

## 序

吹田市では、昭和49(1974)年度の国庫補助事業による埋蔵文化財発掘調査の実施以来、市内各所で多くの発掘調査を行い、これまでに、吹田市の歴史を知る上で欠かせない資料を数多く得てきました。これらの発掘調査の成果については報告書をはじめとして、博物館での展示や講座などを通して、市民の皆様にお伝えできるように努めております。

平成23(2011)年度は、国庫補助事業として市内に所在する遺跡について8件(平成24年1月末現在)の発掘調査を、事業者をはじめとする多くの方々のご協力を得て実施しました。本市教育委員会はこれからも文化財の保護行政により一層強く取り組みたいと考えております。市民の皆様におかれましても埋蔵文化財の発掘調査をはじめとする本市の文化財保護行政に対して、今後とも深いご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

平成24(2012)年3月

吹田市教育委員会

教育長 西川俊孝

## 例　　言

1. 本書は平成23年度国庫補助事業として実施した、垂水遺跡、高畠遺跡、吹田城跡推定地、藏人遺跡、垂水南遺跡、櫻坂遺跡(平成24年1月末現在)の緊急発掘調査をまとめたものである。また、平成22年度に国庫補助事業として実施した、片山東屋敷廻遺跡、垂水遺跡についてもあわせて報告する。

2. 発掘調査地点は次のとおりである。

(平成22年度)

片山東屋敷廻遺跡 吹田市片山町4-2419-13

垂水遺跡 吹田市垂水町1-752-9

(平成23年度)

垂水遺跡 吹田市垂水町1-749-5

垂水遺跡 吹田市垂水町1-747-29

垂水遺跡 吹田市円山町68-5

高畠遺跡 吹田市昭和町1437-6

吹田城跡推定地 吹田市高城町1377-2

藏人遺跡 吹田市江坂町2-452-14

垂水南遺跡 吹田市垂水町3-7-9の一部

櫻坂遺跡 吹田市江坂町3-1866-1

3. 発掘調査の整理作業は吹田市岸部北4丁目10番1号、吹田市立博物館で実施し、資料の保管も同所において行っている。

4. 本文の執筆は、第8章を西本安秀が、他を賀納章雄が行った。

5. 発掘調査においては、大西茂男氏、森本将裕氏、岡下治正氏、福地正規氏、福地仁志氏、浮氣利廣氏、田中治彦氏、山口千代子氏、井尻和豊氏、安封葉子氏、(株)アーバンプランニングをはじめ、多くの方々の協力を得ました。記して謝意を表します。

## 発掘調査参加者名簿

調査主体 吹田市教育委員会

調査指導 大阪府教育委員会文化財保護課

調査担当 吹田市教育委員会吹田市立博物館文化財保護係 西本安秀、賀納章雄

調査補助員 小川里美、木船安紀子、高井明美、林裕子

## 目 次

第1章	平成23(2011)年度埋蔵文化財発掘調査について	1
第2章	片山東屋敷廻遺跡の発掘調査	3
第3章	垂水遺跡の発掘調査	5
第4章	高畠遺跡の発掘調査	11
第5章	吹田城跡推定地の発掘調査	13
第6章	歳人遺跡の発掘調査	15
第7章	垂水南遺跡の発掘調査	17
第8章	桜坂遺跡の発掘調査	20

## 挿 図 目 次

第1図	発掘調査遺跡分布図	2
第2図	片山東屋敷廻遺跡調査地周辺図	3
第3図	調査区平面図	4
第4図	土層断面図	4
第5図	垂水遺跡調査地周辺図1	5
第6図	調査区平面図〔平成22年度〕	6
第7図	土層断面図〔平成22年度〕	6
第8図	調査区平面図〔平成23年度・第1期〕	7
第9図	土層断面図〔平成23年度・第1期〕	7
第10図	調査区平面図〔平成23年度・第2期〕	8
第11図	土層断面図〔平成23年度・第2期〕	8
第12図	垂水遺跡調査地周辺図2	9
第13図	調査区平面図〔平成23年度・第3期〕	10
第14図	土層断面図〔平成23年度・第3期〕	10
第15図	高畠遺跡調査地周辺図	11
第16図	調査区平面図	12
第17図	土層断面図	12
第18図	吹田城跡推定地調査地周辺図	13
第19図	調査区平面図	14
第20図	土層断面図	14
第21図	歳人遺跡調査地周辺図	15

第 22 図	調査区平面図	16
第 23 図	土層断面図	16
第 24 図	垂水南遺跡調査地周辺図	17
第 25 図	調査区平面図	18
第 26 図	土層断面図	18
第 27 図	遺物実測図	19
第 28 図	榎坂遺跡調査地周辺図	21
第 29 図	調査区平面図	22
第 30 図	土層断面図	23
第 31 図	出土遺物実測図 1	24
第 32 図	出土遺物実測図 2	25
第 33 図	出土遺物実測図 3	26
第 34 図	榎坂周辺の条里坪付復元図	27

## 図 版 目 次

図版 1	片山東屋敷廻遺跡	図版11	垂水南遺跡 2
図版 2	垂水遺跡〔平成22年〕	図版12	垂水南遺跡 3
図版 3	垂水遺跡〔平成23年度・第1期〕	図版13	榎坂遺跡 1
図版 4	垂水遺跡〔平成23年度・第2期〕	図版14	榎坂遺跡 2
図版 5	垂水遺跡〔平成23年度・第3期〕1	図版15	榎坂遺跡 3
図版 6	垂水遺跡〔平成23年度・第3期〕2	図版16	榎坂遺跡 4
図版 7	高畠遺跡	図版17	榎坂遺跡 5
図版 8	吹田城跡推定地	図版18	榎坂遺跡 6
図版 9	戸人遺跡	図版19	榎坂遺跡 7
図版10	垂水南遺跡 1	図版20	榎坂遺跡 8

## 第1章 平成23(2011)年度埋蔵文化財発掘調査について

平成23(2011)年度は、垂水遺跡、高畠遺跡、吹田城跡推定地、蔵人遺跡、垂水南遺跡、桜坂遺跡の6遺跡8件の発掘調査を実施した(平成24年1月末現在)。

垂水遺跡は、円山町・垂水町1丁目・2丁目一帯に広がる旧石器時代から中世にかけての遺跡である。昭和初期に丘陵上での宅地開発に伴い弥生時代の遺物が発見され、その後、垂水神社境内地における発掘調査で竪穴式住居跡、掘立柱建物跡等が検出され、弥生時代の高地性集落として知られるようになった。また、丘陵南側の平野部においても遺構・遺物の包含が確認されており、平成10(1998)年の発掘調査では、溶解痕のある破碎された古墳時代の銅鏡片が出土し、注目される資料となっている。今回、垂水遺跡においては垂水町1-749-5、垂水町1-747-29、円山町68-5の3件において確認調査を行った。

高畠遺跡は、平成8(1996)年に発見された、昭和町に位置する古墳時代・中世の遺跡である。これまでに中世の掘立柱建物跡をはじめ、溝や土坑などが確認されている。今回の調査は、高畠遺跡の南東側周辺地である昭和町1437-6において試掘調査として実施したものである。

吹田城跡推定地は高城町に位置している。中世に吹田氏が本拠とした吹田城跡と推定される地点であるが、これまでのところ、吹田城と直接の関連が窺える資料は認められてはいない。今回の調査については、高城町1377-2において確認調査として実施したものである。

蔵人遺跡は、豊津町・江坂町2丁目に所在する弥生時代から中世にかけての遺跡である。中世の史料に登場する蔵人村と関連があると考えられている遺跡であり、これまでの発掘調査においても当該期の建物跡、井戸等の生活に関わる遺構・遺物が多く検出されている。今回の調査については、蔵人遺跡の北東側周辺地である江坂町2-452-14において試掘調査として実施したものである。

垂水南遺跡は、江坂町1丁目・垂水町2丁目・3丁目に広がる弥生時代から中世にかけての遺跡である。当遺跡では古墳時代の鍛冶関連資料や滑石製品工房関連の資料、平安時代初期の垂水荘関連資料が注目されている。今回の調査については、垂水町3-7-9の一部において確認調査として実施したものである。

桜坂遺跡は、江坂町3丁目に展開する弥生時代から中世にかけての遺跡である。土地区画整理に伴い平成13年から15年にかけて実施した試掘及び発掘調査によって、それまで2ヶ所のポイントとして確認していた包蔵地が、現在の範囲にまで広がることが判明した。今回の調査については、江坂町3-1866-1において確認調査として実施したものである。

なお、本書では、平成22年度実施の発掘調査のうち、平成23年2月22日に実施した垂水遺跡(垂水町1-752-9)と、平成23年3月7日に実施した片山東屋敷廻遺跡(片山町4-2419-13)の調査報告もあわせて掲載する。



(遺跡名)

- 1. 片山東屋敷廻遺跡
- 2. 高畠遺跡
- 3. 吹田城跡推定地
- 4. 垂水遺跡
- 5. 垂水南遺跡
- 6. 藏人遺跡
- 7. 櫻坂遺跡

第1図 発掘調査遺跡分布図 [1 : 30,000 明治18(1885)年測量地図]

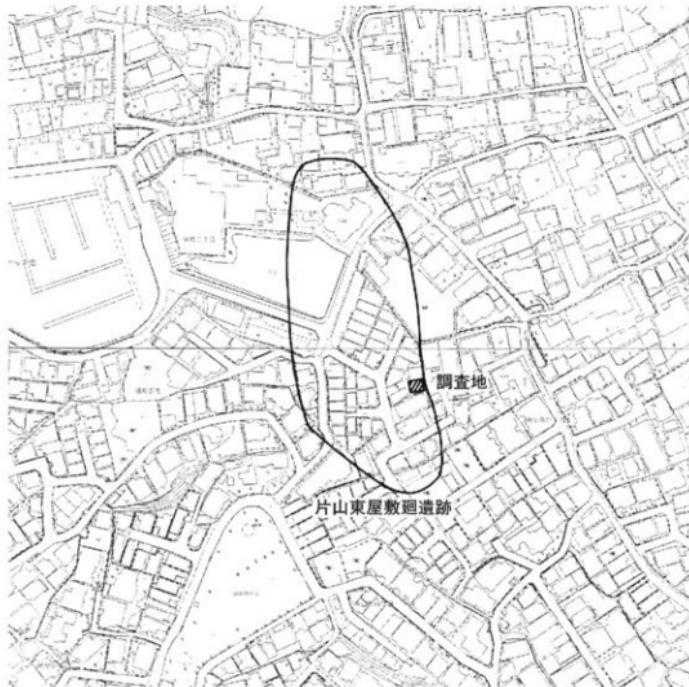
## 第2章 片山東屋敷廻遺跡の発掘調査

### (1) 調査の経過

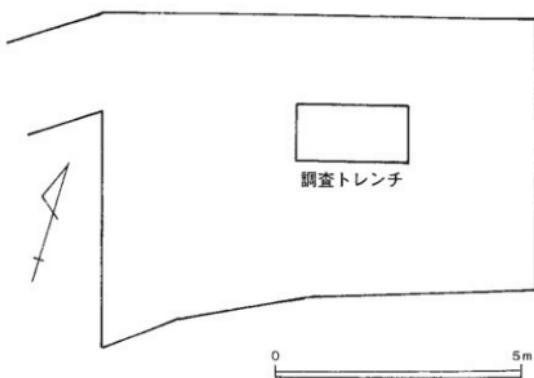
今回の発掘調査は、住宅の建築が計画されたことから事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年3月7日に調査トレンチを1ヶ所(約2.8m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

### (2) 調査の成果

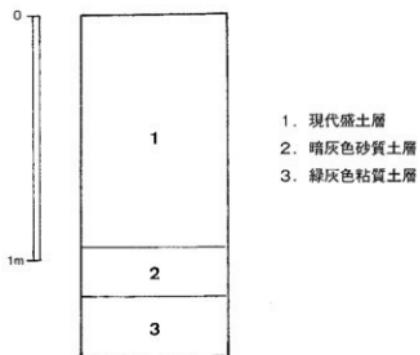
調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層〔第1層〕下において、旧耕土層とみられる暗灰色砂質土層〔第2層〕、地山層である緑灰色粘質土層〔第3層〕の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物の包含については確認されなかった。



第2図 片山東屋敷廻遺跡調査地周辺図 [1:2,500]



第3図 調査区平面図



第4図 土層断面図

### 第3章 垂水遺跡の発掘調査

#### 1. 垂水町1-752-9における発掘調査【平成22年度】

##### (1) 調査の経過

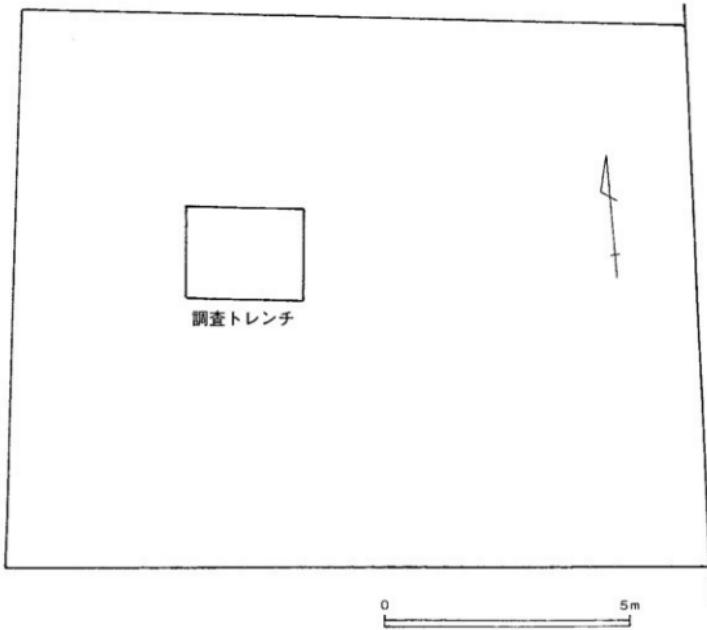
今回の発掘調査は、住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年2月22日に調査トレンチを1ヶ所(約5m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

##### (2) 調査の成果

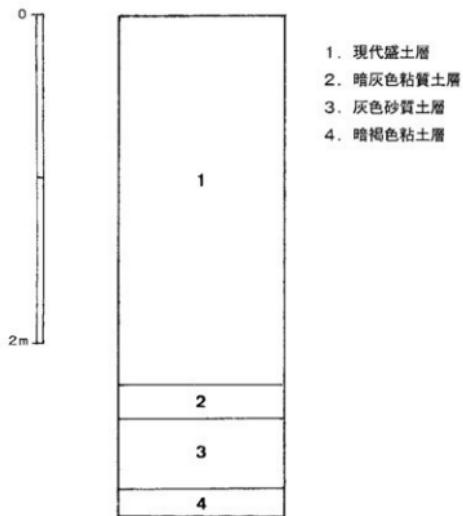
調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層〔第1層〕以下、旧水田耕作土である暗灰色粘質土層〔第2層〕、灰色砂質土層〔第3層〕、暗褐色粘土層〔第4層〕の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物については確認されなかった。



第5図 垂水遺跡調査地周辺図1 [1:2,500]



第6図 調査区平面図 [平成22年度]



第7図 土層断面図 [平成22年度]

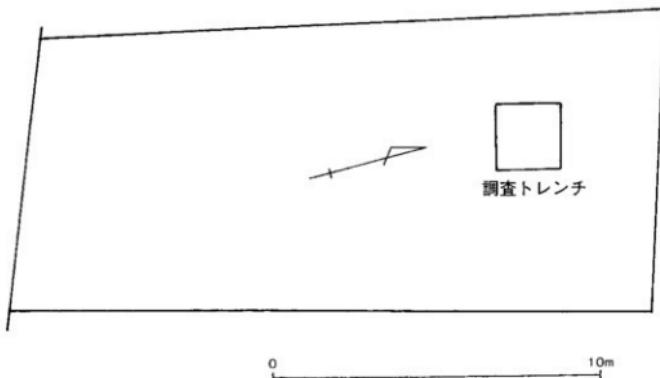
## 2. 垂水町1-749-5における発掘調査 [平成23年度・第1期]

### (1) 調査の経過

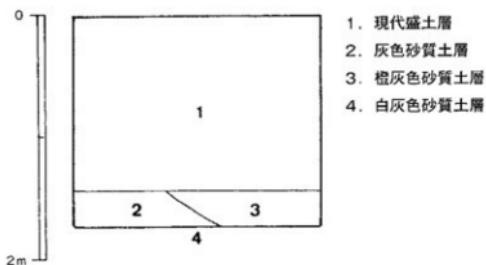
今回の発掘調査は、住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認すること目的に、平成23(2011)年6月13日に調査トレンチを1ヶ所(約4m<sup>2</sup>)設定し、人力掘削で実施した。

### (2) 調査の成果

調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層〔第1層〕以下、灰色砂質土層〔第2層〕、橙灰色砂質土層〔第3層〕、白灰色砂質土層〔第4層〕の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物については確認されなかった。



第8図 調査区平面図 [平成23年度・第1期]



第9図 土層断面図 [平成23年度・第1期]

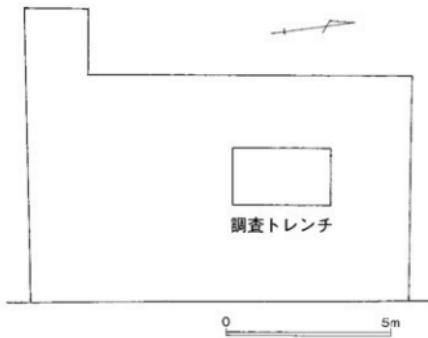
### 3. 垂水町1-747-29における発掘調査 [平成23年度・第2期]

#### (1) 調査の経過

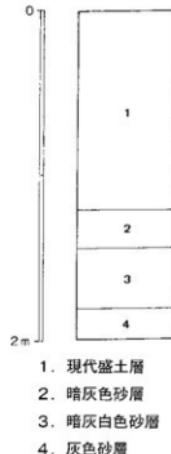
今回の発掘調査は、住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年6月13日に調査トレンチを1ヶ所(約4.9m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

#### (2) 調査の成果

調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層〔第1層〕以下、暗灰色砂層〔第2層〕、暗灰白色砂層〔第3層〕、灰色砂層〔第4層〕の堆積が認められた。これら土層のうち、第2層において中世以前のものとみられる土器片1点が検出されたが、この土器片については細片であり、他所から流れ込んだ二次的な堆積によるものと考えられ、今回の調査において一次的堆積による明確な遺構・遺物は確認されなかった。



第10図 調査区平面図 [平成23年度・第2期]



第11図 土層断面図  
[平成23年度・第2期]

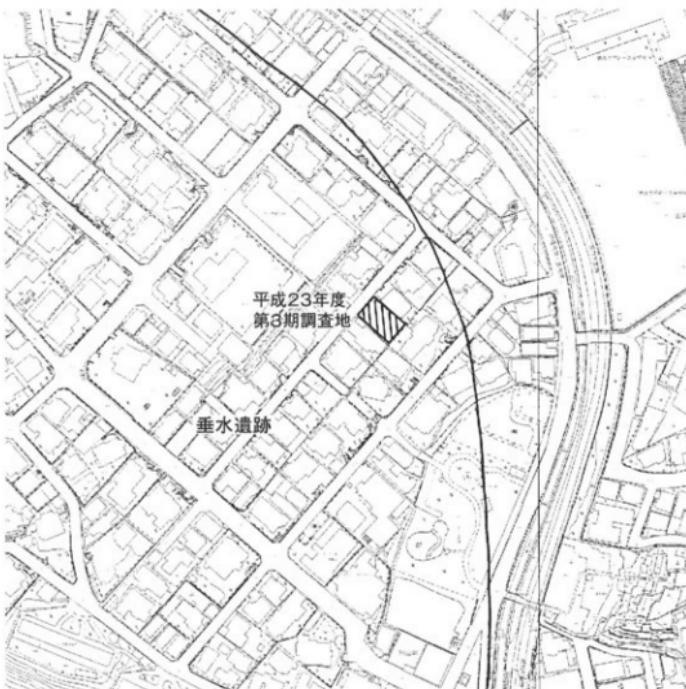
#### 4. 円山町68-5における発掘調査【平成23年度・第3期】

##### (1) 調査の経過

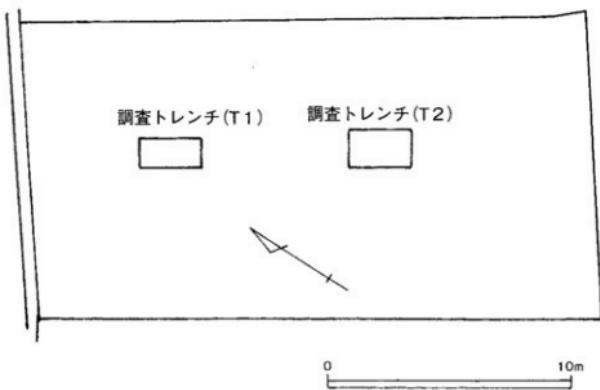
今回の発掘調査は、住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成24(2012)年1月27日に調査トレンチを2ヶ所(約75m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

##### (2) 調査の成果

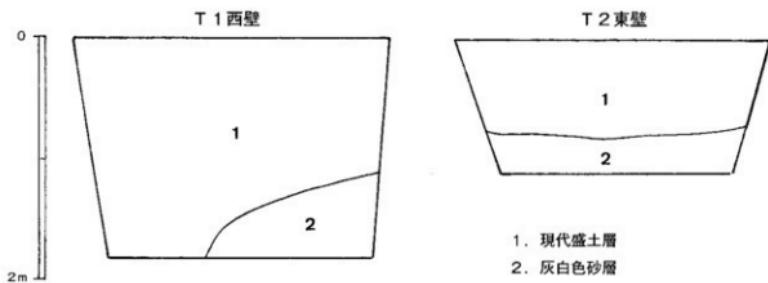
調査トレンチを掘削したところ、現代盛上層【第1層】直下において、地山層である灰白色砂層【第2層】の堆積が認められ、明確な遺構・遺物については確認されなかった。



第12図 垂水遺跡調査地周辺図2 [1:2,500]



第13図 調査区平面図 [平成23年度・第3期]



第14図 土層断面図 [平成23年度・第3期]

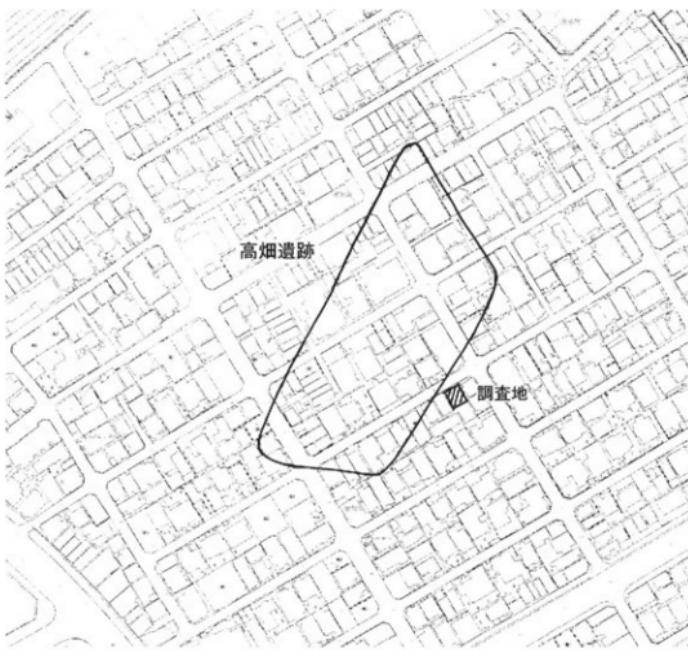
## 第4章 高畠遺跡の発掘調査

### (1) 調査の経過

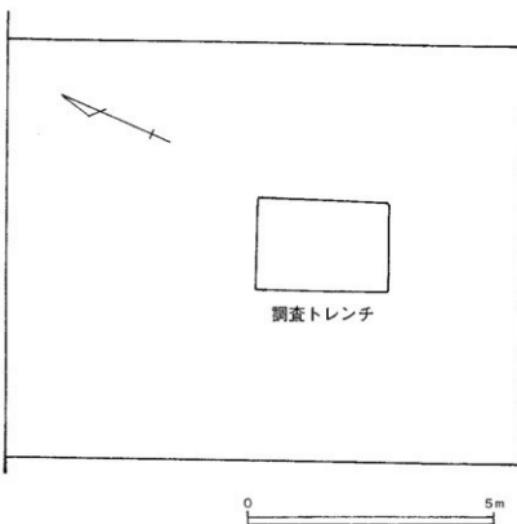
今回の発掘調査は、高畠遺跡の周辺地となる当調査地において住宅の建築が計画されたことから事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年5月6日に調査トレンチを1ヶ所(約5.4m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

### (2) 調査の成果

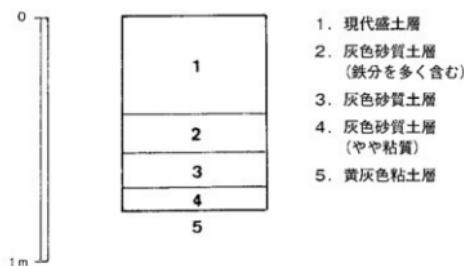
調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層【第1層】以下、灰色砂質土(鉄分多く含む)層【第2層】、灰色砂質土層【第3層】、灰色砂質土(やや粘質)層【第4層】、地山層である黄灰色粘土層【第5層】の堆積が認められた。これら土層のうち、第4層内にて古墳時代の須恵器片、中世の土師器片、瓦器片が少量検出されたが、これらについては細片であり、他所から流れ込んだ二次的な堆積によるものと考えられ、今回の調査において一次的堆積による明確な遺構・遺物は確認されなかった。



第15図 高畠遺跡調査地周辺図 [1 : 2,500]



第16図 調査区平面図



第17図 土層断面図

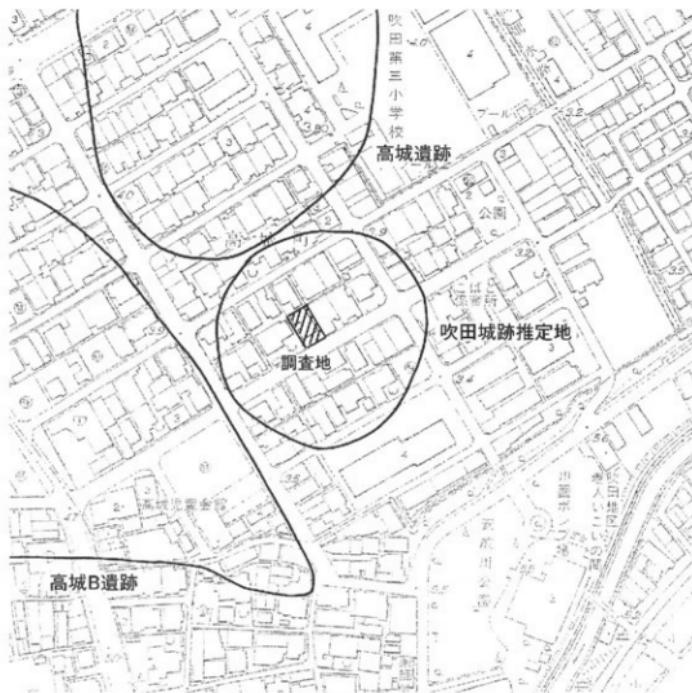
## 第5章 吹田城跡推定地の発掘調査

### (1) 調査の経過

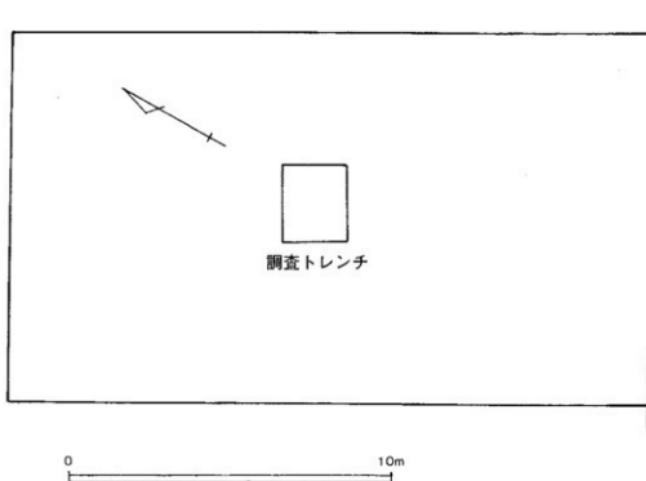
今回の発掘調査は、住宅の建築に伴い事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年8月23日に調査トレンチを1ヶ所(約5m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

### (2) 調査の成果

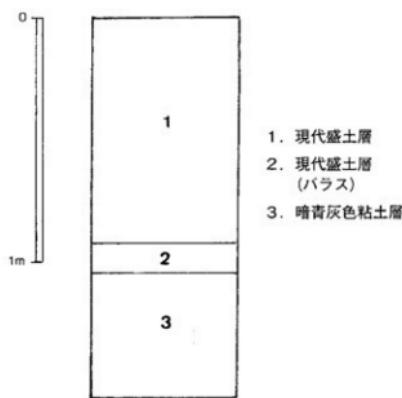
調査トレンチを約1.6mの深さまで掘削したところ、現代盛土層〔第1層・第2層〕以下、池か湿地の堆積土と考えられる暗青灰色粘土層〔第3層〕の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物については確認されなかった。



第18図 吹田城跡推定地調査地周辺図 [1:2,500]



第19図 調査区平面図



第20図 土層断面図

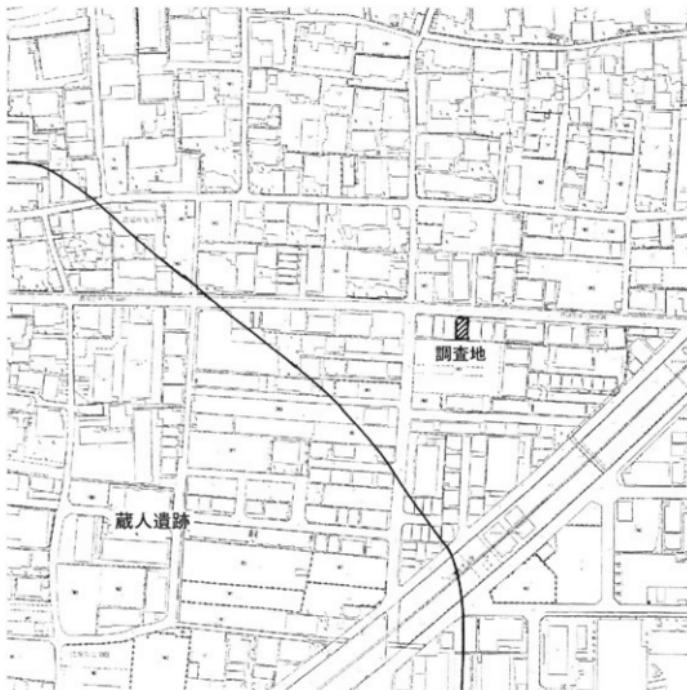
## 第6章 蔵人遺跡の発掘調査

### (1) 調査の経過

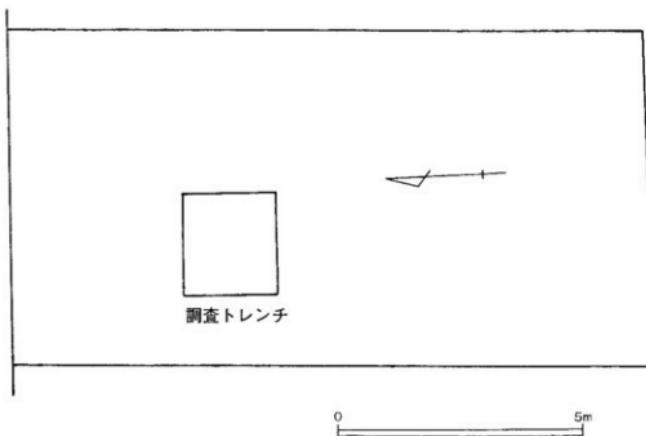
今回の発掘調査は、藏人遺跡の周辺地となる当調査地において住宅の建築が計画されたことから事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年9月22日に調査トレンチを1ヶ所(約4.2m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

### (2) 調査の成果

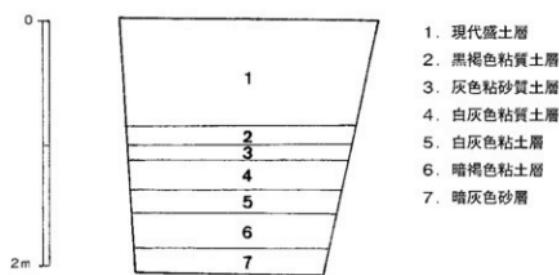
調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層〔第1層〕以下、旧水田耕作土である黒褐色粘質土層〔第2層〕、灰色粘砂質土層〔第3層〕、白灰色粘質土層〔第4層〕、白灰色粘土層〔第5層〕、暗褐色粘土層〔第6層〕、暗灰色砂層〔第7層〕の堆積が認められたが、明確な遺構・遺物については確認されなかった。



第21図 蔵人遺跡調査地周辺図 [1 : 2,500]



第22図 調査区平面図



第23図 土層断面図

## 第7章 垂水南遺跡の発掘調査

### (1) 調査の経過

今回の発掘調査は、事務所の建築が計画されたことから事前に実施したものであり、遺構・遺物包含の有無を確認することを目的に、平成23(2011)年12月15日に調査トレンチを2ヶ所(約11.5m<sup>2</sup>)設定し、重機を用いて実施した。

### (2) 調査の成果

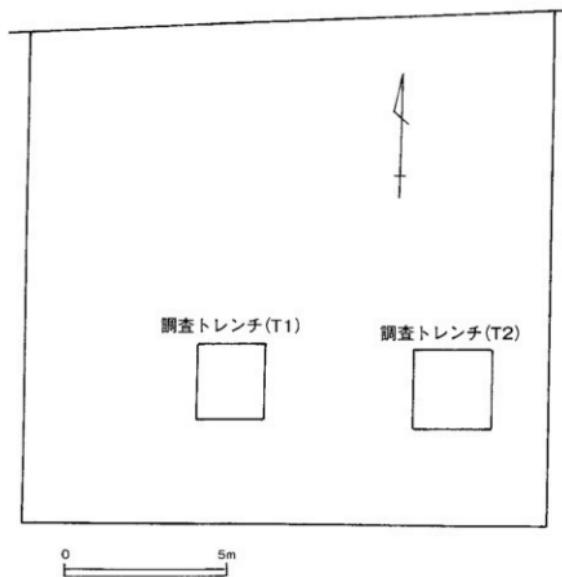
調査トレンチを掘削したところ、現代盛土層〔第1層〕以下、灰色粘質土(やや暗)層〔第2層〕、灰色粘土層〔第3層〕、黒灰色粘土(ややシルト質)層〔第4層〕、暗灰色シルト質粘土層〔第5層〕、暗灰色シルト質粘土(黄灰色砂混じる)層〔第6層〕、黄灰色砂層〔第7層〕の堆積が認められた。

このうち、T 1では第4層と第6層において、T 2では第5層にて、古墳時代のものとみられる土器器片2点と、木製品片が5点検出されたが、これらは少量であり、出土状況から他所から流れ込んだ二次的な堆積によるものと考えられ、今回の調査において一次的堆積による明確な遺構・遺物は確認されなかった。

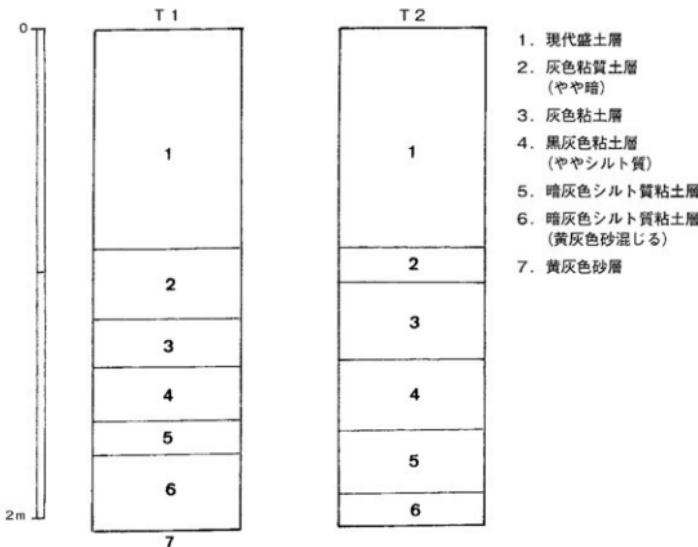
なお、出土遺物のうち、木製品4点を図化することができた。1は、右端表面を平坦面に仕上げ、内側にかけてくぼみを作り、裏面に脚部とみられる突起(断面B)をもつ、浅い桶の一部ではないかと考えられる。2は、上部及び裏面が欠損しているが、表面上部が約40°の角度をもって斜めに削り出されている。3は、残存部で弓状にカーブするもので、加工されたことによってこの形状に整えられたものと考えられる。4は板材片である。



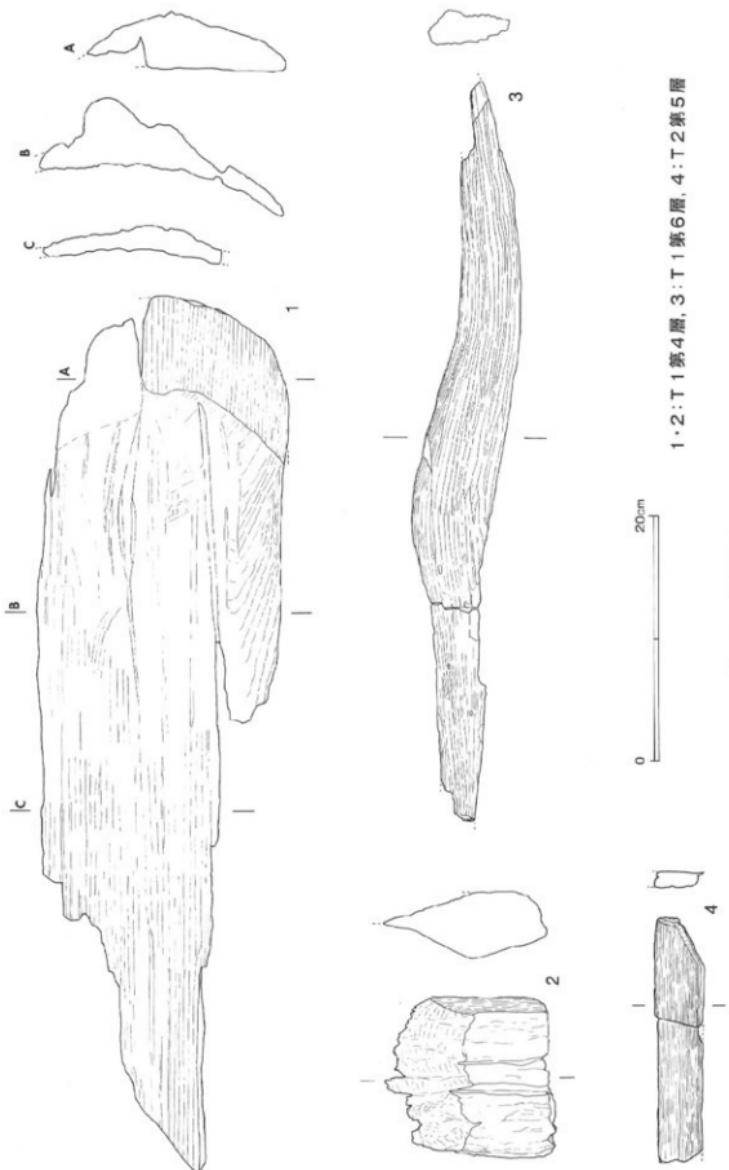
第24図 垂水南遺跡調査地周辺図 [1:2,500]



第25図 調査区平面図



第26図 土層断面図



第27圖 遺物測量圖

## 第8章 榎坂遺跡の発掘調査

### (1) 調査の経過

今回の調査地は榎坂遺跡の北半部に当たる。調査は宅地造成工事に伴い、事前に遺構・遺物包蔵状況の確認を目的に実施したものである。調査区は、最も深く掘削する予定である下水道のマンホール部分を対象にし、平成24(2012)年1月26日に調査トレンチを2ヶ所(調査面積合計約12.1m<sup>2</sup>)設定し、重機及び人力によって調査を実施した。T 1で地表下約1.3m、T 2で約1.2mで層厚15~20cmの黒褐色粘質土層がみられ、ここより主に平安時代~中世の土器の出土があり、平安時代~中世の遺物包含層と考えられる。その下の灰色細砂は遺構面の可能性があったので、精査を行ったところ、軟弱な層で明確な遺構は認められなかった。さらにその下の暗灰色粘質土、黒色粘土層等から古墳時代~白鳳時代頃の上器の出土があり、遺物包含層と判断される。これより以下は湧水が激しく、明確な遺構・遺物が認められないことから調査を終了した。

### (2) 調査の成果

#### a 土層序

当調査区の基本層序は以下のとおりである。

I 層 盛土、暗褐色土

II 層 暗灰褐色砂質土、黃色~灰色砂、淡灰色砂質土、灰色砂質土、淡灰色砂、灰色シルト(軟弱)、灰色粘土、茶褐色粘質土

III 層 黒褐色粘質土(遺物包含層 上層)

IV 層 白灰色粘質土、灰色細砂

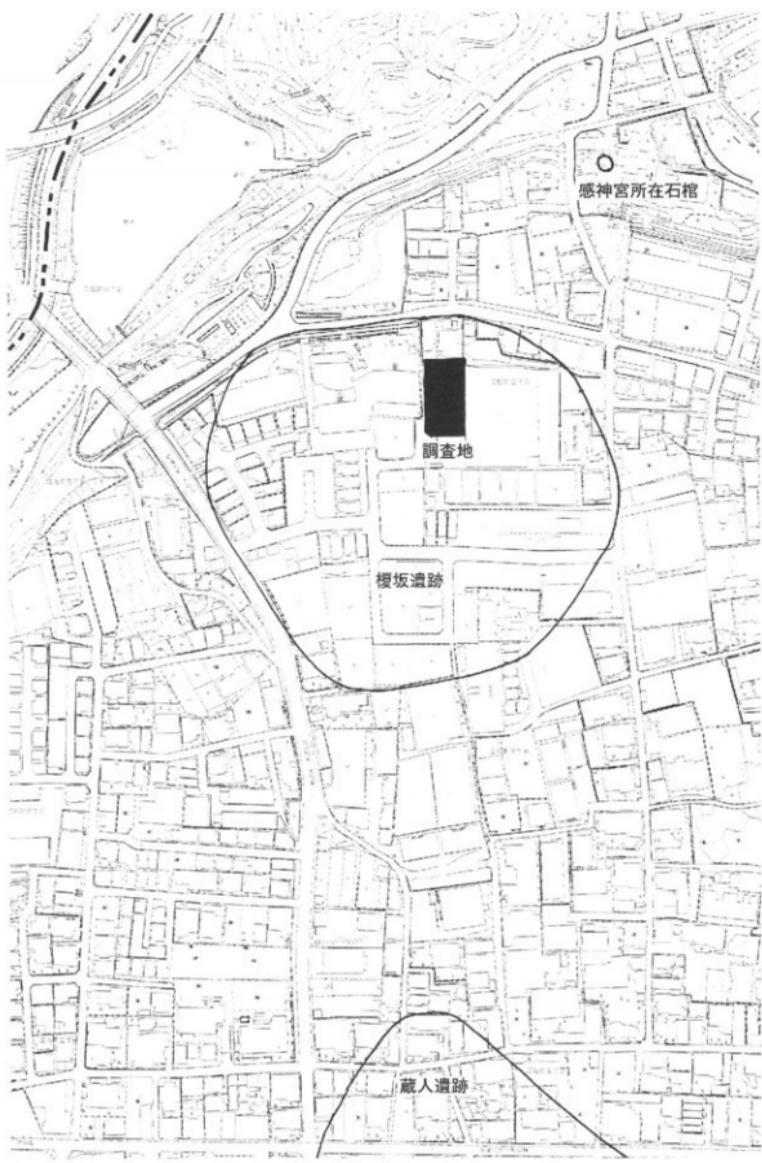
V 層 暗灰色粘質土、黒色粘土、白灰色~灰色粘砂質土、暗灰色粘土、灰色粗砂、灰色シルト、黃灰色粗砂、灰白色粘質土、黒灰色粘土(遺物包含層 下層)

VI 層 白灰色粘質土

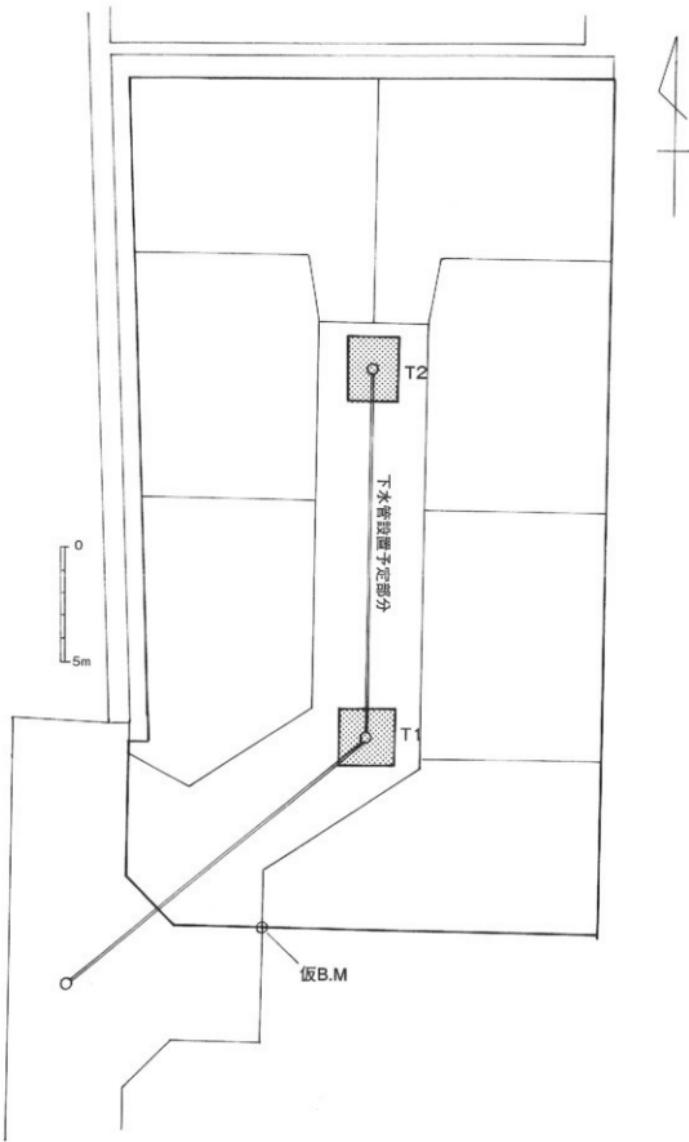
I 層は現代の盛土と耕土(水田等)層で、II層は遺物の出土がないが、土層序よりみて近世~近代の堆積層と考えられる。III層は明確な遺物包含層で中世を主体とした土師器、瓦器、須恵器等の破片が多く含まれる。V層は9層で構成される遺物包含層で、全て軟弱な堆積層であり、明確な遺構面が確認できなかった。遺物は古墳時代~白鳳時代頃のものがあり、土師器、須恵器、瓦等が認められた。VI層は一部分の確認にとどまったので、遺構・遺物については明確にできなかった。

#### b 出土遺物

出土遺物はT 1・2でみられ、それぞれ上層、下層と区分し、記述する。概してT 1の出土が多く、特に上層の出土が多い。

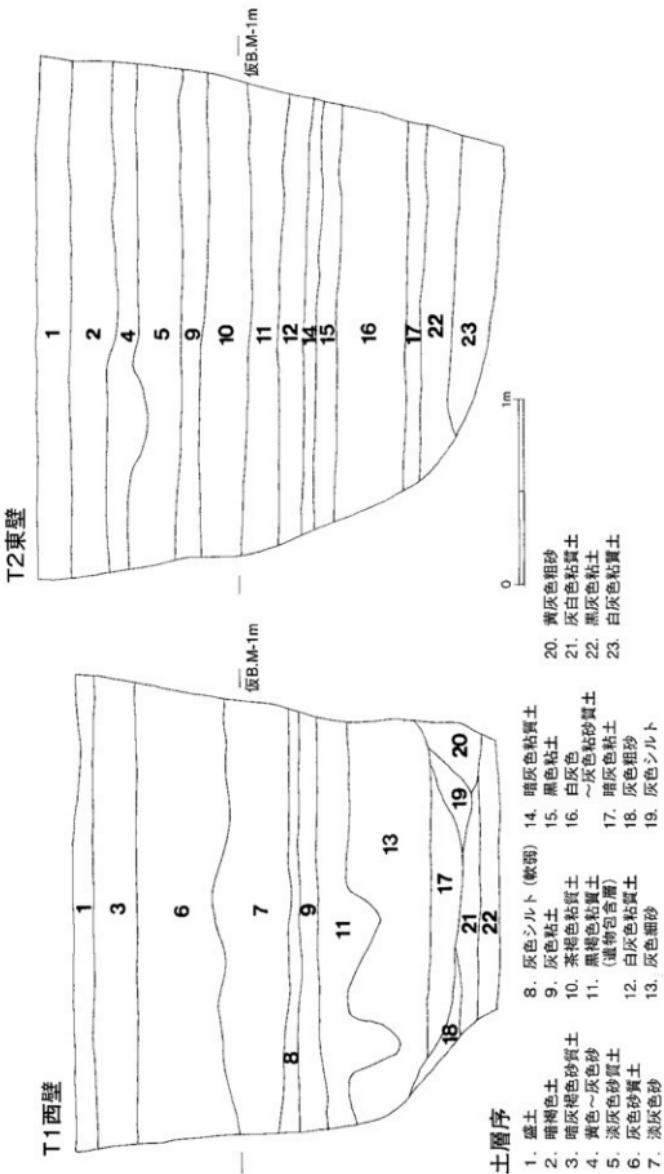


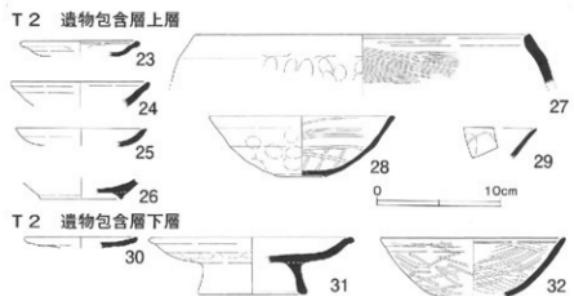
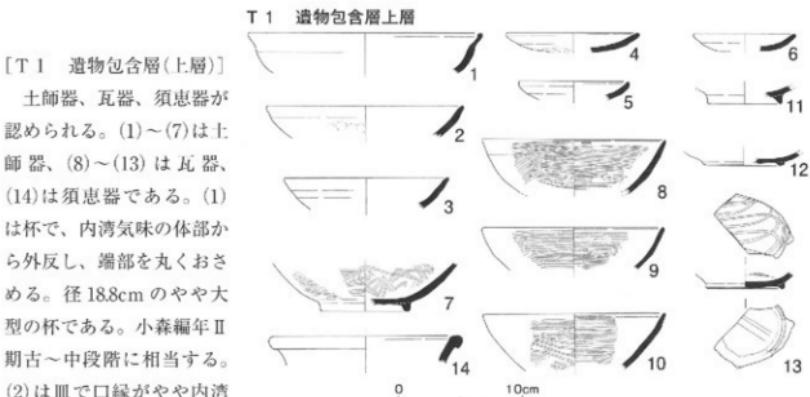
第28図 櫻坂遺跡調査地周辺図 [1 : 2,500]



第29図 調査区平面図

第30図 土層断面図





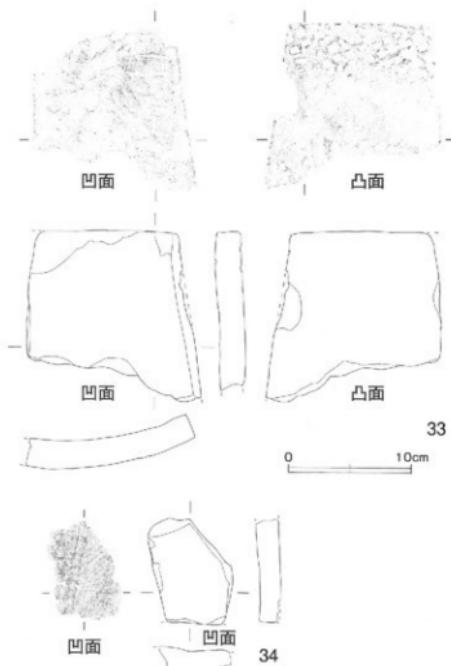
第31図 出土遺物実測図 1

れ、外底面に三条の細い線が施される。橋本編年 I - 2 ~ 3 段階に相当する。(14)は須恵器の小型甕口縁部破片である。口縁は外側に肥厚し、端部は丸くおさめている。中村編年 III - 2 に相当する。

#### [T 1 遺物包含層(下層)]

土師器、須恵器、土師質土製品、瓦等が認められる。(15)は土師器壺の口縁部破片で、復元径 17.8cm を測る。口縁部は外上方に直線的に伸び、口縁端部は内側に肥厚し、丸くおさめている。内外面ともナデが施される。(16)は土師器壺の口縁部破片で肥厚気味に外反し、口縁端部はやや外側に折り曲げられている。内面の一部に横ハケが残るが、大部分はナデが施される。(17)~(20)は須恵器杯である。(17)は杯蓋破片で復元径 11.9cm を測り、外面頂部はヘラ切り未調整の他はヨコナデが施される。

端部はやや丸い。(18・19)は杯身破片で復元径 10.5cm 前後の口径、12.8cm 前後の受部径を測る。口縁部は内上方に短く伸び、口縁端部はやや鋭い。(20)は杯身で復元口径 10cm、受部径 12.2cm、器高 3cm を測る。口縁部は内上方へ短く伸び、端部はやや鋭い。外底部はヘラ切未調整の他はナデを施す。(18)(19)は中村編年 II - 5、(17)(20)は中村編年 II - 6 に相当する。(21)は須恵器の甕口縁部破片で、復元径 18cm を測る。外反する口縁端部を丸くおさめている。外面口唇部直下に綫方向のタタキが残る。中村編年 III - 2 に相当する。(22)は土師質の土製品の破片である。厚さ 2cm のやや湾曲した板状のものに幅約 3cm、高さ約 1.5cm のやや不整形の凸帯がつく。全体的に指による押圧調整が施されている。どの部位に当たるのかは明確ではないが、形状から壺形土器と考えられる。(33)(34)は平瓦の破片である。(33)は凸面に斜格子のタタキ、凹面に布目圧痕が残る。(34)は凸面はナデ、凹面に布目圧痕が残る。(35)はサヌカイト製の削器で長さ 8.1cm、幅 4.8cm を測る。右側側縁部に両面側からの剥離によって刃部が作り出され、下端部と左上端部に原縫面を残す。弥生時代の所産と思われる。



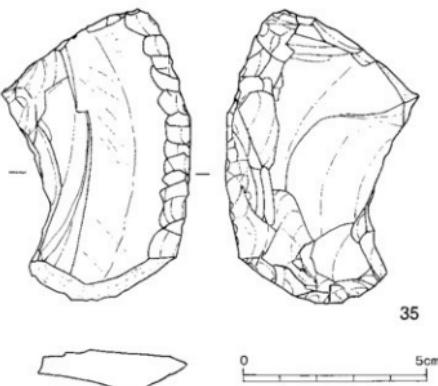
第32図 出土遺物実測図2

## [T 2 遺物包含層(上層)]

土師器、瓦器、磁器が認められる。

(23)～(25)は復元径が9～11cmを測る、土師器小皿の口縁部破片である。

(23)は口縁部が屈曲しながら内湾気味に外上方に短く伸び、口縁端部は丸くおさめている。(24)は口縁部がやや直線的に外上方に伸び、端部はやや丸い。(25)は口縁部が内湾気味で口縁端部はやや鋭い。(26)は土師器の椀底部で断面三角形の高台部を貼り付けている。(27)は土師器の大型羽釜の口縁部破片で復元径26.7cmを測る。口縁部は内傾し、弱い屈曲



第33図 出土遺物実測図3

を持ちながら上方に伸び、端部は丸くおさめる。内面には斜め及び横方向のハケが施されている。(28)は瓦器椀で口縁は内湾気味に外上方に伸び、端部はやや肥厚気味で丸くおさめる。体部内面は水平方向の粗いヘラミガキ、内底面は平行線状の粗いヘラミガキが施され、外面は指による押圧調整である。底部外面は形骸化した高台がつく。いわゆる和泉型で尾上編年Ⅲ-3に相当する。(29)は白磁の口縁部破片で外面に陽刻鎬蓮弁文が施されている。

## [T 2 遺物包含層(下層)]

(30)は土師器小皿で復元径9.9cmを測る。口縁は外方へ低く伸び、端部は丸い。(31)は土師器の高台付杯で口径16.2cm、底径8.6cm、器高4.7cmを測る。杯部は浅く、体部は屈曲し、口縁部は外反して水平に伸び、端部は丸くおさめている。鋤柄分類の土師器杯Eの5類に相当し、関東系の土器と考えられる。(32)は瓦器椀で口縁は内湾気味に上方に外反し、端部はやや丸くおさめる。内外面とも横方向にややまばらなヘラミガキが施され、口縁内面上端部に沈線を巡らす。いわゆる棹葉型で、橋本編年I-3～II-1に相当する。

### (3) まとめ

今回の調査ではT 1、T 2の調査区からは、明確な遺構は確認できなかったが、上・下層の遺物包含層から遺物収納箱1箱分の遺物が出土した。その内容は土師器、須恵器、瓦器、瓦、磁器、石器等の多彩なもので時期相としては弥生時代から中世に及ぶこと、T 1・2の遺物包含層上層は平安時代後期の11世紀～12世紀のものが主体であり、遺物包含層下層は7世紀代を主体とした所産であることがわかった。榎坂遺跡のこれまでの調査においても平安時代の遺構・遺物、7世紀代の遺物が多く検出されており、一連のものと考えられる。特に、白鳳時代の平

## 十一条八里

瓦の出土は付近に当時期の寺院が存在する可能性を示唆すると考えられる。

当調査地周辺は、平安時代には摂関家領、後には春日社領垂水西牧、東寺領垂水庄が成立したとされ、豊富な文献と歴史地理的な観点から荘園の研究が進められてきたところである。特に島田次郎ほかによる『日本中世村落史の研究』は当地の古代～中世の荘園の実態を詳細に研究されている。当地について記した文献である「春日



第34図 櫻坂周辺の条里坪付復元図(『日本中世村落史の研究』に加筆)

社領垂水西牧櫻坂郷加納田畠取帳」によると、文治5(1189)年段階で櫻坂郷の屋敷地の記載があるのは、11条8里の8・17・18・30坪、4条1里的1～4・10・15坪である。今回の調査地は「宗友」名で屋敷地の記載がある11条8里17坪の南西隅部に当たると考えられる。今回多量に出土した平安時代の遺物は少し時期的に遡るものではあるが、当地に早くから集落が形成され、荘園の経営がなされた結果、もたらされたものと考えられる。

### <参考文献>

- 小森俊寛「京から出土する土器の編年的研究－日本律令の土器様式の成立と展開、7～19世紀」2005年 京都編集工房  
 中村浩ほか『陶邑I～III』大阪府教育委員会 1976年・1977年・1978年  
 尾上実「大阪南部の中世土器－和泉型瓦器椀－」「中近世土器の基礎研究」1985年 中世土器研究会  
 島田次郎編『日本中世村落史の研究』1966年 吉川弘文館  
 中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』1995年 真陽社  
 鳥柄俊夫「畿内における古代末から中世の土器－模倣系土器生産の展開－」「中近世土器の基礎研究IV」1988年 中世土器研究会  
 橋本久和「高槻における中世土器の編年」「上牧遺跡発掘調査報告書」1980年 高槻市教育委員会

## 報告書抄録

ふりがな 書名	へいせい23(2011)ねんどまいぞうぶんかざいきんきゅうはくつちょうさかいほう 平成23(2011)年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
副書名	片山東屋敷廻遺跡 垂水遺跡 高畠遺跡 吹田城跡推定地 藏人遺跡 垂水南遺跡 榎坂遺跡
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	西本安秀・賀納章雄
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564-8550 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 TEL(06)6384-1231
発行年月日	西暦 2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ○○°○○'○○"	東経 ○○°○○'○○"	調査期間	調査面積	調査原因
			○○○○	○○○○			
片山東屋敷廻遺跡	吹田市片山町4-2419-13	27205 71	34°46'22"	135°31'31"	20110307	2.8	確認調査
垂水遺跡	吹田市垂水町1-752-9	27205 86	34°46'05"	135°30'16"	20110222	5	確認調査
垂水遺跡	吹田市垂水町1-749-5	27205 86	34°46'05"	135°30'16"	20110613	4	確認調査
垂水遺跡	吹田市垂水町1-747-29	27205 86	34°46'05"	135°30'16"	20110613	4.9	確認調査
垂水遺跡	吹田市垂水町45-5	27205 86	34°46'05"	135°30'16"	20120127	7.5	確認調査
高畠遺跡	吹田市昭和町1437-6	27205 124	34°45'50"	135°31'43"	20110506	5.4	試掘調査
吹田城跡推定地	吹田市高城町1377-2	27205 101	34°45'40"	135°31'49"	20110823	5	確認調査
藏人遺跡	吹田市江坂町2-452-14	27205 85	34°45'49"	135°29'29"	20110922	4.2	試掘調査
垂水南遺跡	吹田市垂水町3-7-9の一部	27205 88	34°45'40"	135°30'11"	20111215	11.5	確認調査
榎坂遺跡	吹田市江坂町3-1866-1	27205 96	34°46'03"	135°29'26"	20120126	12.1	確認調査

所 収 遺 跡 名	種 别	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特記事項
片山東屋敷廻遺跡	集落遺跡	古墳～平安	なし	なし	なし
垂水遺跡	集落遺跡	旧石器～中世	なし	なし	なし
垂水遺跡	集落遺跡	旧石器～中世	なし	なし	なし
垂水遺跡	集落遺跡	旧石器～中世	なし	土器片	なし
垂水遺跡	集落遺跡	旧石器～中世	なし	土器片	なし
高畠遺跡	集落遺跡	古墳・中世	なし	須恵器・土師器・瓦器	なし
吹田城跡推定地	城館跡	中世	なし	なし	なし
藏人遺跡	集落遺跡	弥生～中世	なし	なし	なし
垂水南遺跡	集落遺跡	弥生～中世	なし	土師器・木製品	なし
榎坂遺跡	集落遺跡	弥生～中世	なし	土師器・須恵器・瓦器・平瓦・磁器・石器	なし

図版 1 片山東屋敷廻遺跡



調査トレンチ近景（南東から）



調査トレンチ北壁（南から）

図版2 垂水遺跡〔平成22年度〕



調査地近景（東から）



調査トレンチ南壁（北から）

図版3 垂水遺跡〔平成23年度・第1期〕



調査トレンチ北壁（南から）



調査トレンチ東壁（西から）

図版4 垂水遺跡〔平成23年度・第2期〕



調査トレンチ近景（南から）



調査トレンチ南壁（北から）

図版5 垂水遺跡〔平成23年度・第3期〕

1



T 1近景（北西から）



T 1西壁（東から）

図版 6 垂水遺跡〔平成23年度・第3期〕 2



T 2近景（北西から）



T 2東壁（西から）



調査風景（南から）



調査トレンチ東壁（西から）



調査トレンチ近景（南から）



調査トレンチ北壁（南から）

図版 9  
藏人遺跡



調査トレンチ近景（南東から）



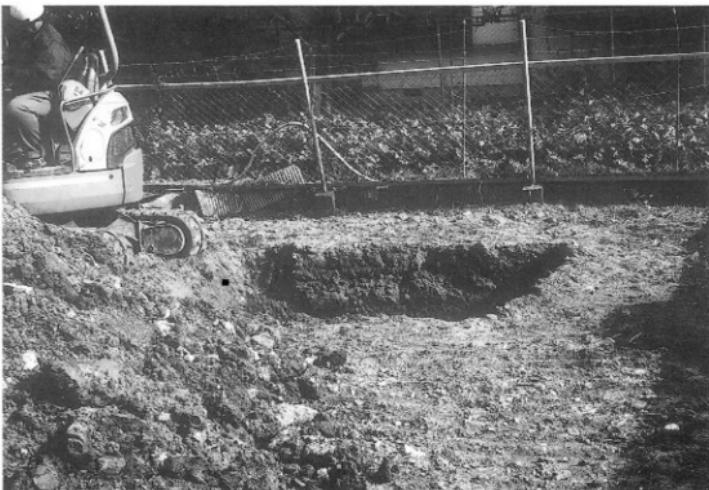
調査トレンチ北壁（南から）



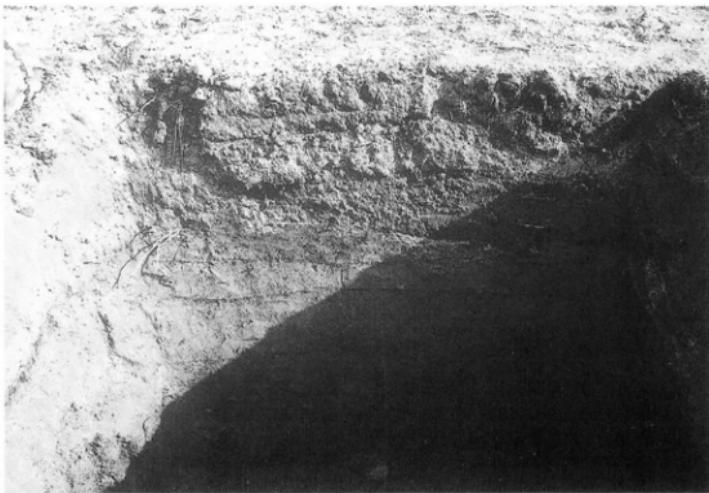
T 1 近景（西から）



T 1 東壁（西から）



T 2 近景（西から）



T 2 東壁（西から）



木製品 1



木製品 3

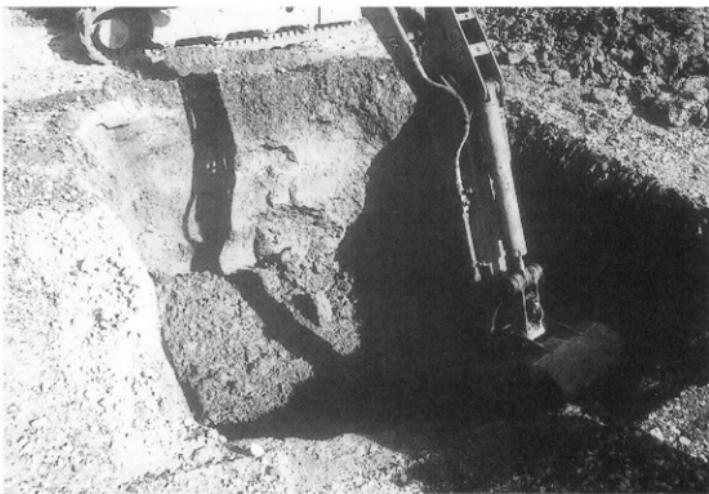


木製品 4

木製品 2



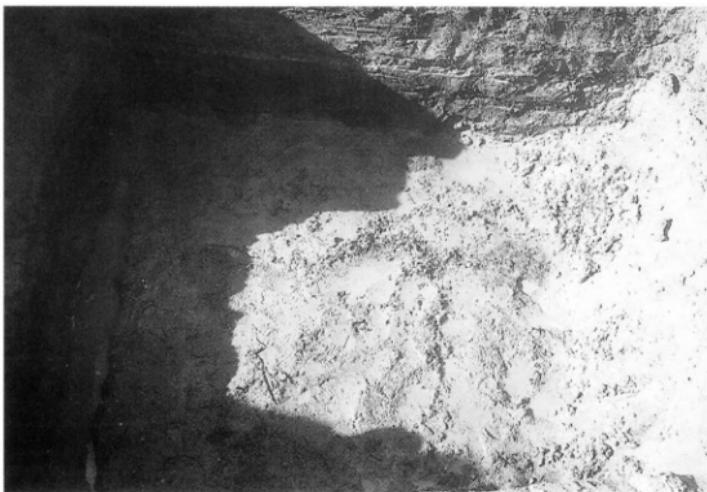
調査地近景（南から）



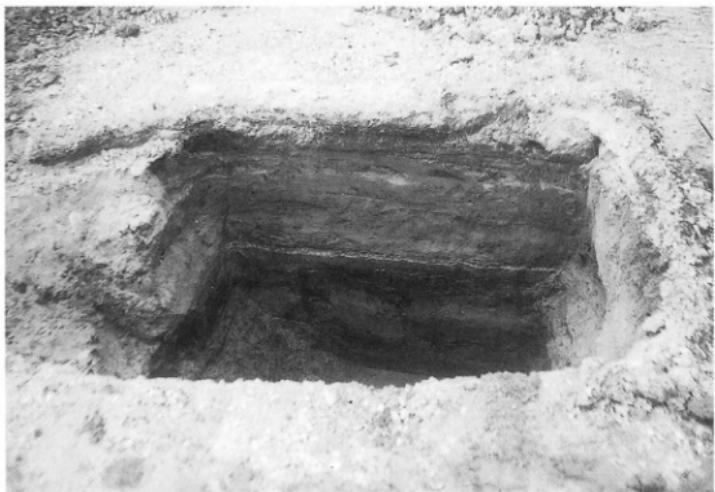
T 1 調査区掘削状況（南から）



T 1 調査区中世面（東から）



T 1 調査区中世面細部（東から）



T 1 調査区（東から）



T 1 調査区西壁（東から）

図版  
16

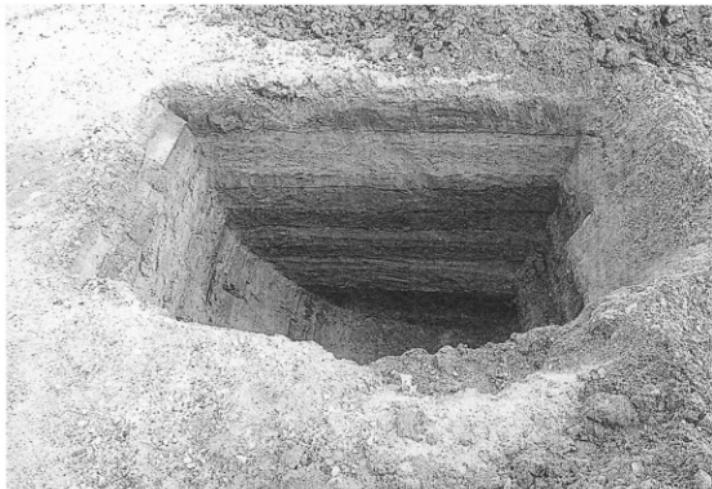
棲坂遺跡4



T 1 調査区西壁細部 1



T 1 調査区西壁細部 2



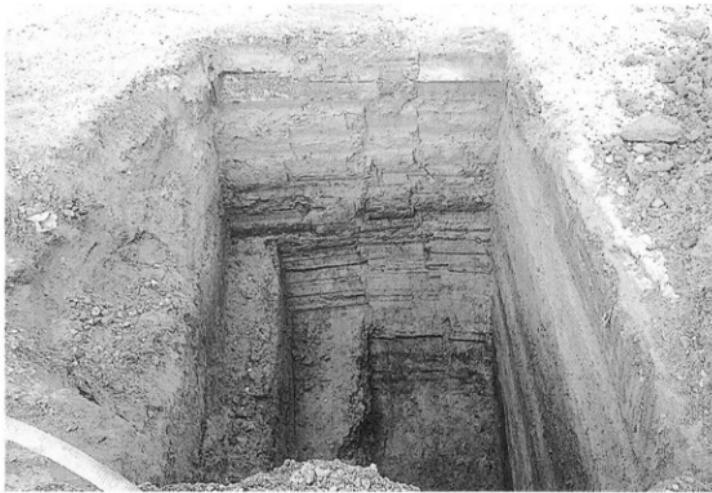
T 2調査区（西から）



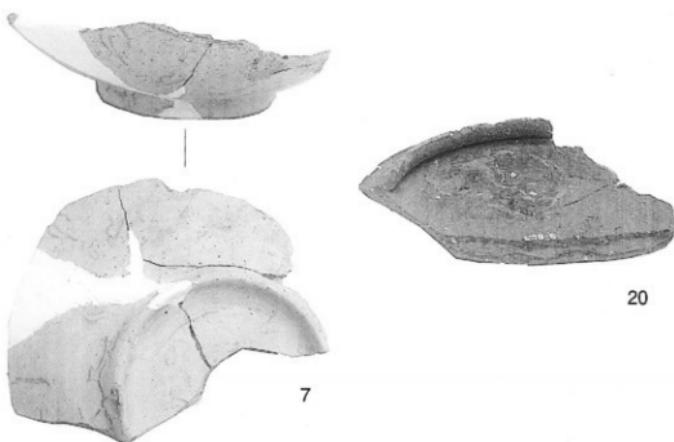
T 2調査区東壁（西から）



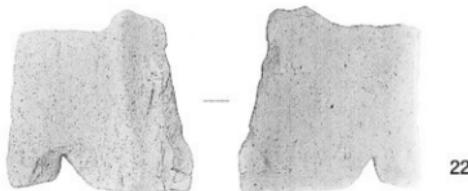
T 2 調査区東壁細部（西から）



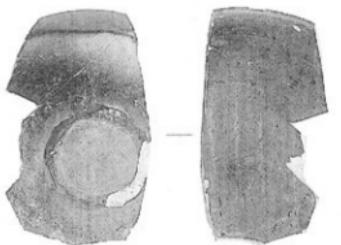
T 2 調査区北壁（南から）



調査区出土遺物 1



22

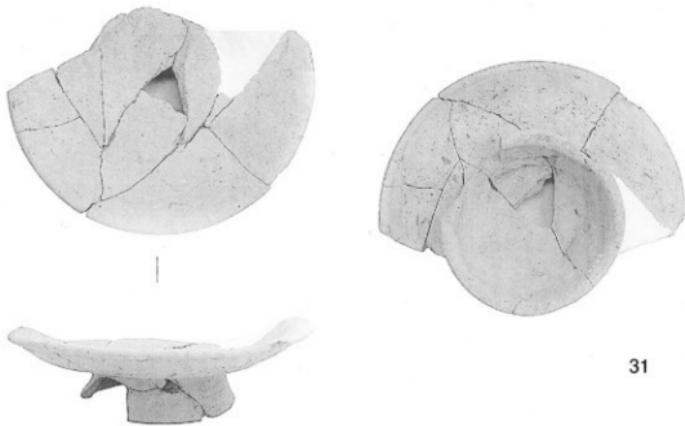


28

調査区出土遺物 2

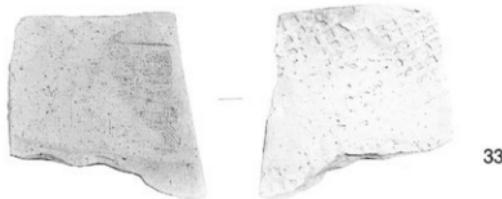
図版20

榎坂遺跡8

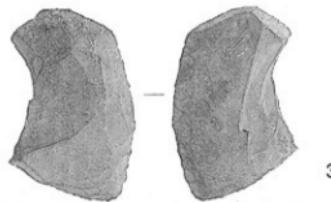


31

調査区出土遺物3



33



35

調査区出土遺物4

平成23(2011)年度  
埋蔵文化財緊急発掘調査概報

片山東屋敷遺跡  
垂水遺跡  
高烟遺跡  
吹田城跡推定地  
藏人遺跡  
垂水南遺跡  
榎坂遺跡

平成24(2012)年3月31日

編集 吹田市泉町1丁目3番40号  
発行 吹田市教育委員会

この冊子は、300部作成し、一部当たりの単価は662円です。

